



NPO法人 大谷石研究会



大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌



「未来に響け『石の声』シンポジウムVOL.2」のポスター



会員や学生が掃除や補修をした旧大谷公会堂で開催。会場には、写真集「大谷石百選」のパネルを展示しました。

午前の部は大谷地区の歴史的建造物と地下採掘場の見学で、大谷地区のシンボリック存在の「屏風岩石材石蔵」と、大谷の景観を形作る重要な要素である「茅葺屋根と石蔵の渡辺家住宅」「大久保家の石室」、現在石を採掘している石の里「希望」の地下採掘場を見学して頂きました。参加者数が予想以上の数となり、スタッフ不足で見学者にはご迷惑をお掛けしましたが、日常では体験できない時間を過していただけだと思います。

お昼は大谷石のピザ釜で焼いたピザを召し上がっていただきましたが、大好評で完売いたしました。シンポジウムの会場である登録有形文化財の「旧大谷公会堂」は、前日まで会員と東海大学の学生の皆さんとで、数十分の埃を払ったため、見違える様になりました。パネリストは小野口理事長、川越からお招きした全国街並み保存連盟常任理事の荒牧澄多さん、宇都宮で創作和食「石の蔵」を経営している上

まだまだ暑さが残る9月29日土曜日、登録有形文化財の「旧大谷公会堂」を会場に、昨年開催したNPO法人大谷石研究会創立10周年記念イベントの第2弾となる、「未来へ響け『石の声』シンポジウムVOL.2」を開催。午前の部の地下採掘場や大谷石蔵などの見学に東京、埼玉、千葉、栃木などから100人が、午後のシンポジウムにも90人が参加しました。

# 「未来に響け『石の声』シンポジウムVOL.2」に100人の参加者《報告》

NPO法人 大谷石研究会  
理事 佐藤公紀

野仁史さん、コーディネーターは塩田副理事長です。はじめに小野口理事長より研究会の歩みと旧大谷公会堂保存活用運動の経過について報告がなされ、合わせてこれからの活用について「地域交流の場」「産業資料館」「観光情報発信の場」「ギャラリー」としての活用など、この場所での保存活用あるいは別の場所に移築しての活用等が提案されました。荒牧さんより、自身が係わった川越の「鏡山酒造跡地利用」について、市民による保存運動の結果、明治、大正、昭和の蔵が「地元食材販売」「物販」「飲食」「ギャラリー」「イベントスペース」などに蘇った事例が紹介されました。また現在川越市内に残る旧織物市場の保存活動を、みんなで掃除する事から始めている事例が紹介されました。上野さんからは、大谷石の倉庫を活用して創作和食レストランを開業するまでの話と、現在クラシックやチャズのコンサートを定期的に行う等の文化活動を行っている事例が紹介されました。



国登録有形文化財 小野口家住宅  
画廊と庭園

〒321-0344 宇都宮市田野町885 TEL 028-652-0407 FAX 028-652-6360  
http://www5.plala.or.jp/toeido/ E-mail:toueidou@gray.plala.or.jp



www.takes-archi.com

株式会社テイクス設計事務所

TAKES 〒321-0933 宇都宮市築瀬町1834-6 TEL028-638-3730

